

教科目名 電気回路 (Electric Circuits )

学科名・学年 : 電気電子工学科 4年 (教育プログラム 第1学年 科目)

単位数など : 必修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 学習保証時間 45時間)

担当教員 : 佐藤秀則

授業の概要			
線路は導体であり静電的には同電位であるが、駆動電源が時間的に変化する場合線路の電圧、電流は波の形で伝わる。前期はこのような分布定数線路の物理と解析法を学ぶ。後期の前半は各種の回路解析法と諸法則をグラフ理論とも併せ復習し、変成器、非相反回路、非線形回路、FETの取り扱いを学ぶ。後期後半はこれまでの回路の解析法とは逆の立場で各種の回路合成法について学ぶ。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(B2), JABEE目標(d1)(g)	
(1) これまでに学んだ電気回路に関する基礎力を増す。(課題演習, 定期試験)			
(2) 授業項目に関連した諸現象について知見を深め、理論的な理解ができる。(課題演習, 定期試験)			
(3) 演習問題を通して理解を深めるとともに、継続的な学習ができるようにする。(課題演習, 定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7	第1章 分布定数回路 1.1 線路を伝わる波の物理 1.2 波動方程式 1.3 波の反射 1.4 電圧・電流のダイアグラム 1.5 波の透過 1.6 定在波の物理 1.7 フェーザを用いた解法	線路を伝わる波のイメージを電子の動きや電圧や電流の変化を通して理解する 波が波動方程式を満たすこと、弦や分布定数線路において波動方程式が得られることを理解する 波の反射や透過を物理的に理解し、定在波ができることを理解する 時空間の正弦変化をフェーザで表現できる	【理解の度合い】
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9 10 11 12 13 14	前期中間試験の解答と解説 1.8 フェーザを用いた解法 1.9 有限長線路の共振と固有振動 1.10 スミスチャートによる解法 1.11 スミスチャートの理論 1.12 電信方程式 1.13 復習	時空間の正弦変化を、境界条件を考慮して解くことができる 有限長線路に特徴的な共振と固有振動を理解する スミスチャートを用いた定常解析を理解する 損失のある場合の伝播について理解する	【理解の度合い】
15	前期期末試験 前期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
16 17 18 19 20 21 22	第2章 回路解析補足 2.1 回路解析法 2.2 グラフと回路解析 2.3 回路の諸法則復習 2.4 変成器の扱い 2.5 非相反回路 2.6 非線形回路 2.7 FET	各種の回路解析法を紹介し、グラフ理論の基礎の上に整理する 回路の諸法則を整理し、応用できるようにする 変成器、非相反回路、非線形回路、FETの取り扱いを理解する	【理解の度合い】
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24 25 26 27 28 29	前期中間試験の解答と解説 第3章 回路の合成 2.8 1ポート回路合成 2.9 減衰器、整合回路の設計 2.10 LCフィルタ合成 2.11 LCフィルタ合成 2.12 アクティブフィルタの合成 2.13 復習	各種の回路合成法を理解し、設計できるようにする	【理解の度合い】
30	後期期末試験 後期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
履修上の注意			【総合達成度】
教科書 大野ら, 大学課程電気回路(1)(2) オーム社			
参考図書			
関連科目 電気回路, 制御工学, プロジェクト演習(専攻科)			
総合評価 達成目標の(1)~(4)について4回の定期試験と課題演習で評価する。 最終成績 = $0.8 \times (4 \text{ 回の定期試験の加重平均(順に } 1:2:1:2 \text{ の比率)})$ + $0.2 \times (\text{課題演習レポート評価の平均})$ 総合評価が60点以上を合格とする。			【総合評価】 点